

木造天海僧正坐像と

(県指定文化財)

堀河夜討図

(市指定文化財)

令和4年11月12日土

— 同年12月18日 日



木造天海僧正坐像 修理後 喜多院蔵 江戸前期 【埼玉県指定文化財】

■開館時間 午前9時から午後5時
(入場は午後4時30分まで)

■休館日 11月21日(月)、28日(月)、12月5日(月)、12月(月) 11月14日(月)は、埼玉県民の日のため開館

■入館料 大人200円(160円)、大学生100円(80円)、中学生以下無料

※()は、団体(20名以上の料金)

※障害者手帳をお持ちの方と付添者1名は無料。

※川越きもの日()にちなみ、8日、18日、28日に着物で来館された方は団体料金。

※11月14日(月)埼玉県民の日、12月1日(木)川越市民の日、12月4日(日)、「12月第1日曜日」、は無料観覧日。

■関連事業 11月26日(土)、12月3日(土) 文化財保護課担当者による作品解説
13:30~14:00 修理の内容や新たな知見、修理を行う意義等を説明します。

協力: 喜多院 代表役員 堀入秀知、養寿院 代表役員 金剛清輝、仏像文化財修復工房代表 松岡誠一、(株)山中絵画修復工房代表 山中和人、林宏一、埼玉県教育委員会文化資源課
主催: 川越市、川越市教育委員会文化財保護課

川越市教育委員会文化財保護課

木造天海僧正坐像 (県指定文化財) と

堀河夜討図 (市指定文化財)



堀河夜討図 修理後全体図 養寿院蔵 江戸前期頃 【川越市指定文化財】

令和4年11月12日土 - 同年12月18日 日

会場
川越市立美術館
〒350-0053 埼玉県川越市郭町2-30-1
TEL 049-228-8080 FAX 049-228-7870

[交通案内]
(駐車場が狭いため公共交通機関でのご来館にご協力ください)

●東武東上線・JR埼京線(川越線)「川越駅」から
○東口7番のりば東武バス「川越運動公園/埼玉医大/上尾駅西口」ゆき「川越前」下車徒歩5分。
○東口1・2・4・5・6番のりば東武バス「蔵のまち」経由で「札の辻」下車徒歩8分
○東口3番のりば「小江戸名所めぐりバス」で「博物館前」下車
○西口2番のりば「小江戸巡回バス」で「博物館美術館前」下車(土日祝のみ運行)

●西武新宿線「本川越駅」から
○5番のりば東武バス「川越運動公園/埼玉医大/上尾駅西口」ゆき「川越市役所前」下車徒歩5分
○5番のりば東武バス「蔵のまち」経由で「札の辻」下車徒歩8分
○「小江戸巡回バス」で「博物館美術館前」下車(土日祝のみ運行)
※「川越市自転車シェアリング」も便利です(ステーション「博物館・美術館」)



木造天海僧正坐像

(県指定文化財)

と堀河夜討図

(市指定文化財)

1. 木造天海僧正坐像の修理概要

木造天海僧正坐像 1 軀 寛永 20 年 (1643)

天海僧正 (1536 ㍿ ~ 1643) は、星野山無量寿寺喜多院や東叡山寛永寺の住職を務めた天台宗僧で、喜多院の興隆や川越の繁栄の礎を築きました。本像は、その最晩年の姿を表した肖像彫刻です。檜と考えられる材の寄木造り、全身は極彩色に施され、目には玉眼が嵌められています。頭巾を被り、法服の上に袈裟と横被をかけ、袴の上に裳をつけ、右手で払子を握り、曲棗に胡坐をかいた姿となっています。

像底にある柄に記された墨書銘から、没する直前に制作された寿像と考えられていました。しかし今回の修理で、胎内から新たな墨書銘が発見されたことにより、本像の寿像説を再検討する余地が生まれました。

新たに発見された胎内の銘文

「〇〇(七條㍿)大仏師 式部卿作 寛永貳拾年 十一月吉日」

川越市は、令和 4 年 (2022) 12 月 1 日、市制施行 100 周年を迎えます。この節目の年に、2 件の指定文化財の修理事業が完了しました。市制施行 100 周年という記念する年に、修理後の指定文化財の姿を公開し、修理の内容や修理を行う必要性等を理解していただき、次世代に貴重な文化財を遺すことの大切さを認識していただく契機となれば幸いです。

展示作品

名称	所蔵	指定	種別	員数	指定日
木造天海僧正坐像	喜多院	埼玉県指定文化財	彫刻	1 軀	S31.11.1
堀河夜討図	養寿院	川越市指定文化財	絵画	1 隻	H1.5.12

期間 令和 3 年 6 年から同 4 年 9 月

修理先 仏像文化財修復工房

内容 前回は、昭和 63 年、東京文化財研究所が合成樹脂(水溶性のアクリル樹脂カ)等を中心に使用し、彩色層の剥落止めを行いました。今回は、膠や布海苔の伝統的素材を中心に使用し、漆の剥落止め、表面彩色の補彩等を行いました。また内側から構造補強を実施し、矧目の広がりを防ぐ修理等も行いました。さらに天海像だけではなく、曲棗や香の修理も行いました。

成果 膠や布海苔等を使用して剥落止めや彩色強化を行い、天然素材を中心とした修理を行ったこと。また、胎内から構造補強を行ったこと。そして、胎内から新たな墨書銘が発見されたこと等です。その銘文は、既に知られている銘文とやや異なった銘が記されています。そのため双方の銘文を併せて考えると、本像が寿像かどうか、再検討を要する機会が生じたことです。

3. 堀河夜討図の修理概要

堀河夜討図 1 隻 江戸時代初期㍿

本品は、幸若舞「堀河夜討」で有名な物語を題材にした屏風です。内容は、源頼朝の命で京都堀河邸の源義経を襲う一団と、応戦する義経、静御前の様子を、第 1 扇から第 6 扇にかけて、その過程を詳細に描いたものです。

人物描写は、面相や着用している甲冑まで一人一人丁寧に描かれるなど、画面全体が精緻に描かれ、京都付近の熟練した画技をもった絵師による作品と推定されます。伝承では、住吉具慶 (1631~1705) の作と伝わります。

本品には、次のような伝承があります。初代川越藩主酒井重忠 (1549~1617) が川越に在城していたとき、夜な夜な城内から合戦の音が聞こえてくる。その音が気になり易者に占ってもらうと、戦の図が原因という。そこで城内を探したところ、堀河夜討図が見つかったため、半双を養寿院に寄進すると、それ以降は合戦の音は収まったという。(川越城の七不思議 「城中蹄の音」)

これが事実か否かは不明ですが、屏風は伝承通り、一隻が養寿院に現存します。当初は、この屏風と対をなすもう一隻の屏風が存在していた可能性が考えられます。しかし現在は、養寿院にある一隻しか存在しません。

期間 令和 3 年 5 月から同 4 年 3 月

修理先 (株)山中絵画修復工房

内容 修理前は、1 面ごとに額装仕立てとなっていました。そのため、本紙絵具の剥落や浮き上がり等が著しくみられ、また、以前の修理の際に挿入された補紙や旧裏打ち紙によって本紙に汚れ等が付着しやすく、鑑賞の妨げになっていました。そのため今回は、膠水を用いて絵具の色止めや浮き上がりを防ぎ、また、旧裏打ち紙や旧補紙を除去し、現存するオリジナルの絵具部分を出来る限り残すこと。補彩は最小限度に留めることを意識して修理を行いました。そして、当初の姿であった屏風装に仕立て直しました。

成果 今回の修理によって、画面全体が鮮明になり、全体を詳細に観察することが出来るようになりました。

本紙の寸法で、第 1 と第 6 面は、第 2 から第 5 面より横幅が狭く、その差は約 2 寸 (約 6.06cm) ありました。また、過去に少なくとも 2 回修理が行われたことも確認されました。

本品は今までガラスの額装状態にあり、本紙を細かく調査できる状態ではありませんでした。しかし今回の修理を機に、本品の研究が進むことを期待します。

(文化財保護課 井口 信久)

4. 修理作業の様子 堀河夜討図



■修理前 全景 第五扇



■修理後 全景 第五扇



■修理前 部分 (第五扇の源義経カ)



■修理後 部分 (第五扇の源義経カ)



■修理作業 (旧補紙除去前)



■修理作業 (旧補紙除去後)



■修理作業 (今回の修理による裏打ち後)



■修理作業 裏打ち作業

2. 修理作業の様子 木造天海僧正坐像



■修理前 全景



■修理後 全景



■構造補強作業



■膠塗布作業



■胎内の銘文 (首下部分)



■矧目の補修



■白土下地の補修



■白土下地の色合わせ